

Daily Report (号外)

～新型コロナウイルスの新たな変異株の検出を背景とした株式市場の下落～

事態概要

26日の日本株式市場は新型コロナウイルスの新たな変異株が南アフリカで確認されたとの発表を受けて、大幅下落となりました。

欧州を始めとした海外では新型コロナウイルスの感染状況が悪化しており、今回新たな変異株の感染拡大により再び経済活動への制限が強まるとの見方から、投資家のリスク回避姿勢が強まりました。南アフリカでは、新規感染者数が直近数日間で大幅に急増している要因を本変異株によるものとみており、現在南アフリカだけではなくボツワナや香港でも感染者が確認されています。

また、英国ではこの変異株への予防措置として、南アフリカとその隣国6か国からの直行便を禁止する措置を発表しています。世界保健機関(WHO)は26日にも緊急会合を開き、今回発見された変異株の危険性について議論するとみられています。

市場の反応

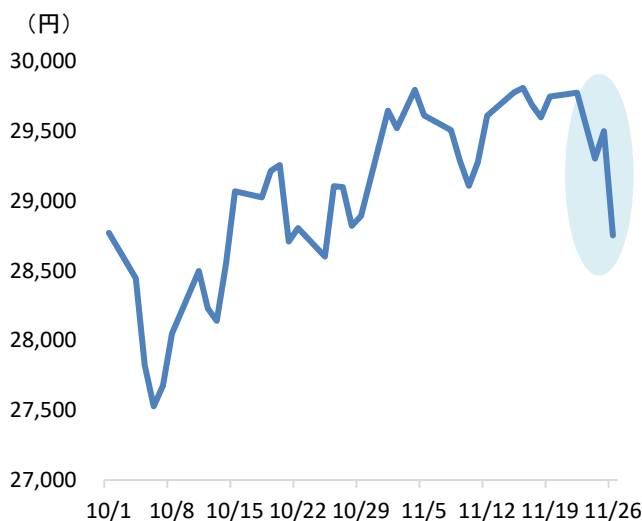
26日の日本株式市場は、寄り付きから反落して取引が開始されました。25日の米国株式市場が休場で手掛かり材料が少ない中、南アフリカで新たな変異株が確認されたことなどが嫌気され、日経平均株価は前場に心理的節目と捉えられている2万9000円を約1ヶ月ぶりに下回りました。後場に入り一段安となった後、引けにかけては持ち直したものの、本日の日本株式市場は日経平均株価が前日比▲747円66銭(前日比▲2.53%)と大幅下落しました。東証株価指数(TOPIX)も同▲40.71pt(同▲2.01%)と大幅に下落しました。

時間外取引で米国10年債利回りは、前営業日比▲0.09%程度の1.54%程度まで低下しています。

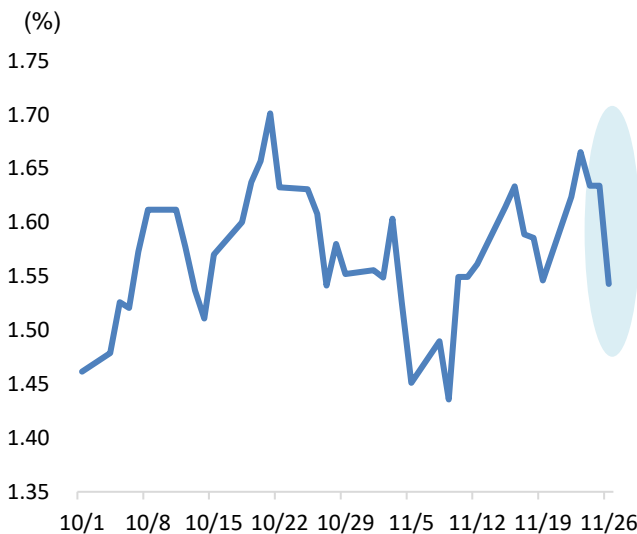
時間外取引でWTI原油先物(22年1月限)は、同▲3.06%の1バレル75.99ドルとなり、反落しました。

為替市場は、新たな変異株の感染拡大が経済の正常化を阻害するとの見方から、前日比73銭円高ドル安の1ドル=114円63銭となりました。

日経平均株価の推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2021/10/1～11/26 (出所)Bloomberg

※上記データについては、日本時間11月26日の15時時点

今後の見通し

南アフリカで確認された新型コロナウイルスの新しい変異株「B.1.1.529」は、従来の変異株に比べて複数の変異が生じ、免疫反応をくぐり抜けて高い感染力を持つ可能性が懸念されており、現時点でコロナワクチンが効果を発揮するのかなどの詳細は判明していません。

このため新たな変異株が世界的に感染拡大する可能性は否定できず予断を許さないものの、同じく南アフリカで最初に確認された「ベータ株」は世界的に拡大しなかった経緯もあることから、現時点で世界的感染拡大を過度に警戒することは早計とも考えられます。

今後は感染が南アフリカの局地的な感染に留まるかが焦点となり、詳細な情報が判明するまで株式市場は短期的にはボラティリティの高い展開が想定されます。警戒感が一段と強まれば日経平均株価の節目の28,000円、さらには2021年8月に付けた同27,000円近辺をうかがう展開もあり得ると考えます。しかし、感染力がそれほど強くない場合は、株価は徐々に底入れし、経済活動の正常化期待を背景に長期的には堅調に推移すると予想します。